

コロナで認知症患者が増加！

2025年 高齢者の約5人に1人は認知症

「テレビが早口でついていけない」「怒りっぽくなった」・・・それって認知症かも？

『マンガでわかる「認知症の人には、こんなふうに見えています」』 5/17発売

認知症患者の視点に立てば、対処法が見えてくる！ 予防法も掲載！



2025年には高齢者の約5人に1人が発症する(※)といわれている認知症。家族や近い人が認知症になるということも他人事ではありません。怒りっぽくなったり徘徊したり、認知症患者は時に不可解な言動で家族を悩ますことがあります。しかし、そこには患者なりの理由や思いがあり、それを理解することで余裕を持って当人と接することができますと、本誌監修者で脳内科医の加藤俊徳氏は言います。

本誌では、「認知機能が低下している人の視点」で、認知症患者のよくある言動をわかりやすくマンガ化しました。症状を初期から重度までのステージ別に分け、その理由や対応策を、1万人以上の脳を診断してきた加藤先生が解説しています。また、認知症患者の家族に役立つ情報をまとめたブックインブックや、40～50代から始める「脳の強化法」なども掲載した、これからの時代に家庭にあると心強い一冊です。

※厚生労働省「新オレンジプラン」「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」より

『マンガでわかる「認知症の人には、こんなふうに見えています」』
発売日：2022年5月17日
定価：1100円(税込)

マンガだから読みやすい！ 1万人以上の脳を診てきた名医が解説！

▼マンガで事例をわかりやすく紹介



▼脳内科医・加藤先生が対処法を詳しく解説



▼認知症のサポートガイドブック付き



すぐに取り組める予防法も！

- ★絶対ノー残業デーをつくる
- ★10分間の昼寝をする
- ★歌を歌いながら料理をつくる
- ★階段を1段とばして下りる
- ★創作料理をつくってみる
- ★自分の目標を親にメールで伝える
- ★街で見かけた人の心理を推測する
- ★おしゃれな人の服装をまねる

■コロナ禍で認知症患者が急増!? 機会と意欲の減退は大きな問題

外出自粛によって体を動かすことが少なくなると、高齢者は筋肉、関節などが萎縮して体の各部位が老衰しはじめます。感染予防は大前提ですが、散歩などで積極的に外に出ることが大切です。

■男女でも認知症の傾向、進行に違いがある

症状が出始めるのは65歳以上が多く、女性はその年代になっても家事などできめ細かい作業をすることが多いので、認知機能の低下に気づきやすいです。一方、男性は身の回りのケアも妻任せにしていることが多く、発覚が遅れがちで、認知症初期から中期まで一気に進んでしまう傾向があります。



明日はわが身かもしれない病気、それが、認知症です。年を重ねれば重ねるほど認知症になるリスクが上昇します。もし家族が認知症と診断されても、認知症の人の脳の世界を少しでも想像し理解できれば、やってあげられることが分かります。理不尽に思える振る舞いに頭を悩ませることもあります。そんなとき、相手の気持ちを汲み取りながら、介護の負担も軽くすることができます。

監修者：加藤俊徳(かとう としり) プロフィール

脳内科医／医学博士。加藤ブラチナクリニック院長。株式会社「脳の学校」代表。昭和大学客員教授。専門はMRI脳画像診断、発達脳科学、発達障害、認知症。脳番地トレーニングの提唱者。独自開発した加藤式MRI脳画像診断法を用いて、これまで1万人以上を診断・治療。『1万人の脳を見た名医が教える すごい左利き「選ばれた才能」を120%活かす方法』(ダイヤモンド社)、『名医が実践する 脳が変わる超・瞑想』(サンマーク出版)、『記憶力の鍛え方』(宝島社) など著書多数。

取材ご検討ください！



【軽度】

「几帳面なお母さんなのに、冷蔵庫にマヨネーズが2つ!?」
…作業をこなす能力が衰えて家事の粗が目立ってきた

（解説）

認知症で認知機能が衰えていくと、日常生活や仕事などで必須の「作業をこなす能力」が衰えます。作業を行う時の手順を間違えたり、わからなくなったりする「実行機能障害」により「自分が買ったもの」がわからなくなり、「これから買うべきもの」と区別がつかなくなることがあります。

（対処法）

できないことは決してとがめず、受け止めて家族全体でカバーしていきましょう。認知症に気がつくためにも、高齢になってきた家族の挙動、行動には注意を払いましょう。

【中程度】

「看護師さんのお尻を触ったりエロトークで周囲が困惑」
…判断力が低下したゆえの愛情表現

（解説）

「認知症になった人は子どもに還る」といわれます。認知機能が低下し、不安や緊張が高まることで甘えたり、世話をせがんだりといった振る舞いに出る人もいます。さらに判断力が低下してしまうため、羞恥心もなくなっています。

（対処法）

ただ叱責するだけではなく、散歩などで外に連れ出したりすることで関心を他に向けて考えるみましょう。



【やや重度】

「そこにはないものが見える幻視・錯視が起こる」
…レビー小体型認知症に多くアルツハイマー型でも現れる

（解説）

あるはずのないもの、いるはずのない人が見える「幻視」、静止しているものが動いたり、別のものに見えたりする「錯視」は認知症で現れる症状の一つですが、これはレビー小体型認知症の典型的な症状です。脳の中で視覚を司る領域が萎縮し、視覚に異常が発生してしまうことが原因です。

（対処法）

まずは環境を整えることから始めましょう。部屋で見間違いをやすいものは極力なくし、照明にも気を使ってみましょう。本人が恐怖や不安におののき、日常に不都合が生じていなければ話を聞いてあげることで落ち着く傾向があります。